

7月12日（水） 朝礼のお話

小学校1年生、夏休みの思いで

1学期最後の朝礼になりました。もう夏休みが目の前ですね。夏休みにやりたいことをあらかじめ決めておくと夏休みをむだなく過ごすことができ良いですよ。ぜひあなたもやってみてください。

さて、今日は校長先生の夏休みの思い出をお話したいと思います。校長先生が小学校1年生、学校に入って最初の夏休み、今から54年前のことです。この年の夏休みの始めに世界中の人がテレビに釘付けになった大事件がありました。1969年、昭和44年の7月21日の出来事です。

その大きな出来事というのは、人間が初めて月に行ったということなんです。「えっ?! 人間って月に行ったことがあるの?」なんて思っている人もけっこういるんじゃないですか。最近の宇宙飛行は地球の周りを回る宇宙ステーションに行くことばかりでしたから、月に人間が行ったことがあるということを知らない人も多いのではないかと思います。

でも、人間は月に行ったことがあるのです。月は地球から一番近い星です。近いと行っても38万キロも離れていますから、もし旅客機でいったとしても16日、つまり半月くらいかかる遠い場所です。宇宙船でも4日ほどかかります。その月には今までに6回の月旅行が成功して、12人の人が月の上を歩いているんです。今から50年も前の話です。この月旅行の最初の1回目が校長先生が小学1年生の夏休みにありました。

最初に月に行ったのはアメリカのアポロ11号と言う宇宙船でした。この宇宙船の船長が世界で初めて月を歩いた宇宙飛行士、ニール・アームストロングというアメリカ人です。7月21日にこの人が最初に月の上を歩く様子は月から全世界にテレビ中継されました。人間が初めて地球ではない他の星に行くと言うことは大事件ですから世界中の人たちがこの中継を見ていました。多分今までで一番たくさんの人が一度にテレビを見ていた事件だと思います。夏休み最初の日だった校長先生も見ていました。その頃のテレビ中継ですからまだあまりきれいは見えませんでしたし、色のついていない、白黒の映像でした。でも「あの月に今、人がいるんだ。」ととても興奮したのをよく覚えています。この時、人間で最初に月に足を踏み出した宇宙飛行士のアームストロングが言った有名な言葉があります。それは「この一歩は一人の人間にとっては小さな一歩だけれど、人間全体にとってはとても大きなジャンプだ」と言う言葉でした。確かに人間が他の星に行けると言うことはとても大きなジャンプをしたということですよ。

このアポロ計画が終わってから50年以上たちました。それ以後月に人間を送る宇宙船を飛ばすことはなかったのですが、最近再び人間が月に行く計画が出てきています。この計画には日本人の宇宙飛行士も加わる可能性があるということです。楽しみです。

今日は校長先生の夏休みの思い出をひとつ聞いてもらいました。今日も最後まで一生懸命聞いてくれてありがとう。今日もまた暑くなります熱中症に気をつけて過ごしましょう。